

[CASE 10]

えんた かなこ 遠田 佳奈子さん

遊佐町消防団 本部分団

地域のための活動は いつかきっと自分に返ってくる



本 部分団を結成した2010年に入団してから、10年以上にわたって団活動に従事してきた遠田さん。仕事では地域で暮らす高齢者等のさまざまな相談を受ける立場で、より地域と人が見えるようになったと言います。

「消防団に入ってみて、世界が広がったと思います。団活動でさまざまな方にお会いして、年齢も職業も違う方とお話するようになって。消防のことはもちろん、町や地域への思いを聞いて、自分自身のことを考える機会にもなりました」

地域貢献する消防団の活動は、巡り巡って自分のためになっていると言う遠田さん。団員として、貴重な経験もできたと振り返ります。

「青空と雄大な鳥海山を望む絶好の環境で、私も“はしご乗り”に乗り手として参加させていただきました。はしご乗りの写真は町内で配られている“遊佐町の風景”というカードにもなっているんですよ」

大好きな町と、町の伝統のために、自分ができていることを。消防団は、遠田さんにとって、家庭・職場以外のもう一つの大切な場所になっています。

Q1 どんな活動をしていますか？

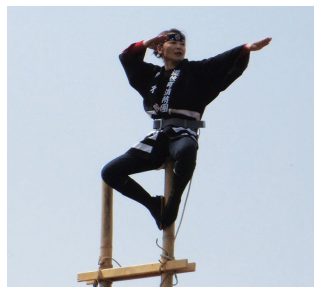
大きいところでは大演習の進行を担当したり、行進に参加したりです。普段は火災予防を呼びかける広報活動もしますし、先日は初めて避難所開設訓練に参加してきました。有事の際の避難所では、女性が不自由な思いをしがちです。女性目線で考えられる存在として活動するようにしています。

Q2 入団を迷っています。 背中を押してください。

ボランティア活動をしている高齢者は、認知症になりにくいというデータがあるそうです。これは、人と対話することが大切なのだと思います。高齢になってからボランティア活動始めるのは大変です。若いうち、体が動くうちに始めて、たくさんの仲間をつくっていったらいいかがでしょうか？



消防団は地域の伝統を守っている部分もあります。ぜひ一緒に活動しましょう！



1

2

3

1. 遊佐町で初めて、女性によるはしご乗りを披露しました
2. 平成26年の春季消防大演習の様子
3. 避難訓練などにも参加し、女性ならではの感性を生かします